

# 2012年度 第2四半期 連結決算概要

2012年 10月31日  
パナソニック株式会社  
河井 英明

## 第2四半期(累計)決算のポイント

2

1. デジタルコンシューマー商品\*の市況悪化や、新興国の景気減速の影響で、売上が減少
2. 固定費の大幅な削減により、公表計画並みの営業利益を達成
3. のれん・無形資産の減損、繰延税金資産の取崩し等により、多額の純損失を計上

\* 一般消費者向けデジタル商品およびそこに使われるデバイス、生産設備

# 1. 第2四半期 連結決算概要

## 2. 年間業績見通し修正

### 第2四半期(累計) 連結決算概要

(億円)

	12年度 2Q累計	11年度 2Q累計	前年比/差	公表値 (5/11)
国内	18,782	20,364	92%	-
海外	17,600	19,688	89% (93%)*	-
売上高	36,382	40,052	91% (92%)* ▲3,670	39,600
営業利益	874 (2.4%)	476 (1.2%)	184% +398	900
税引前利益	▲2,787 (▲7.7%)	▲1,593 (▲4.0%)	- ▲1,194	600
当社株主に 帰属する 当期純利益	▲6,852 (▲18.8%)	▲1,362 (▲3.4%)	- ▲5,490	150

\* 為替の影響を除いた実質ベース(非監査)

## 第2四半期(3ヶ月) 連結決算概要

5

(億円)

	12年度 2Q	11年度 2Q	前年比/差
国内	9,561	10,688	89%
海外	8,676	10,069	86% (88%)*
売上高	18,237	20,757	88% (89%)* ▲2,520
営業利益	488 (2.7%)	420 (2.0%)	116% +68
税引前利益	▲3,165 (▲17.4%)	▲1,419 (▲6.8%)	- ▲1,746
当社株主に 帰属する 当期純利益	▲6,980 (▲38.3%)	▲1,058 (▲5.1%)	- ▲5,922

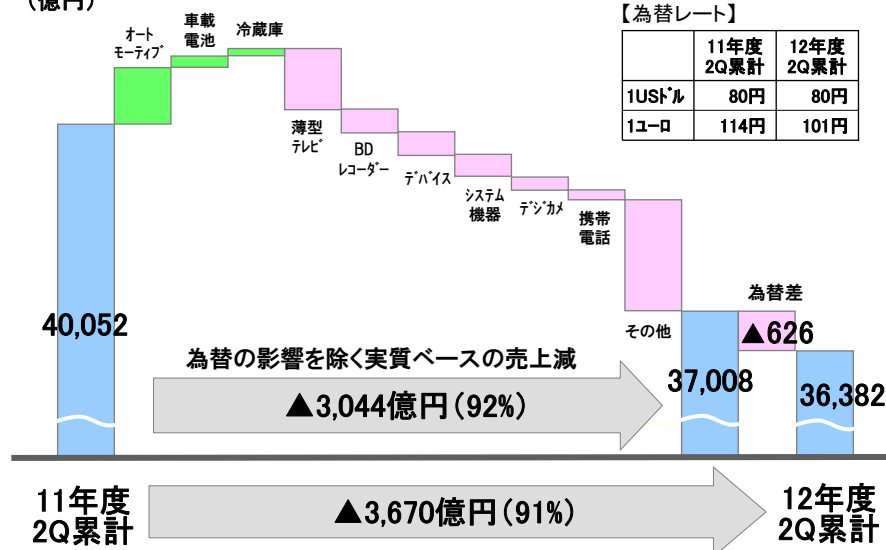
\* 為替の影響を除いた実質ベース(非監査)

Panasonic ideas for life

## 第2四半期(累計) 商品別売上高分析

6

(億円)



Panasonic ideas for life

## 第2四半期(累計) 地域別販売概況

7

(億円)

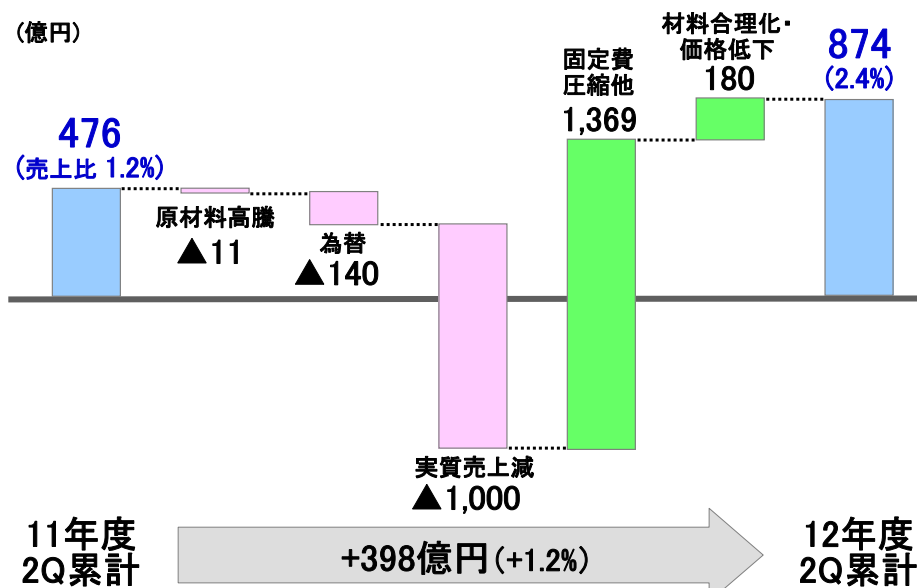
	売上高	前年比		構成比(前年差)	
		円ベース	現地通貨ベース		
日本	18,782	92%	-	52%	(+1%)
米州	4,866	101%	103%	13%	48% (▲1%)
欧州	3,204	83%	93%	9%	
アジア	4,384	85%	89%	12%	
中国	5,146	88%	88%	14%	
合計	36,382	91%	92%	100%	

Panasonic ideas for life

## 第2四半期(累計) 営業利益分析

8

(億円)



Panasonic ideas for life

## 第2四半期(累計) セグメント別実績

9

(億円)

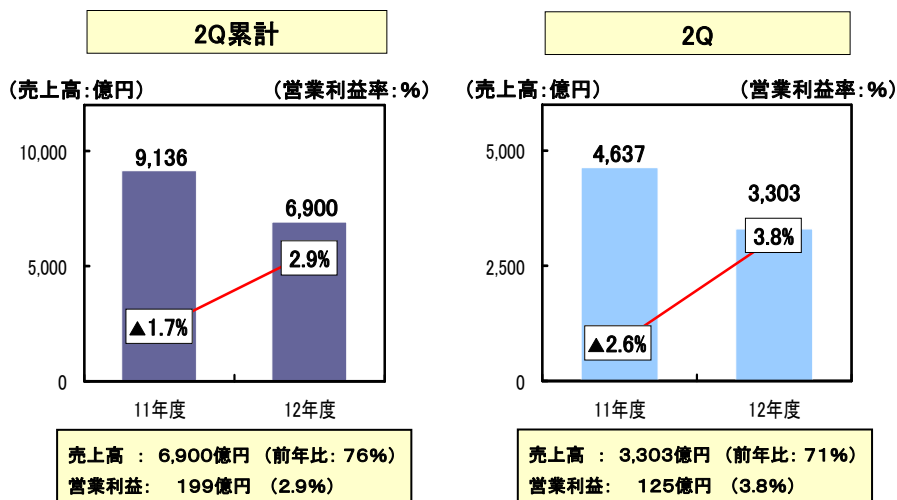
	売上高		営業利益	
		前年比		前年差
AVCネットワークス	6,900	76%	199	+356
アプライアンス	8,140	102%	510	▲18
システムコミュニケーションズ	3,573	88%	▲100	▲34
エコソリューションズ	7,403	100%	186	▲8
オートモーティブシステムズ	3,827	138%	87	+80
デバイス	6,936	92%	179	+185
エナジー	2,925	95%	28	+126
その他	6,983	71%	94	▲53
計	46,687	90%	1,183	+634
消去又は全社	▲10,305	—	▲309	▲236
連結決算	36,382	91%	874	+398

Panasonic ideas for life

## AVCネットワークス

10

### 構造改革効果や固定費削減で収益改善

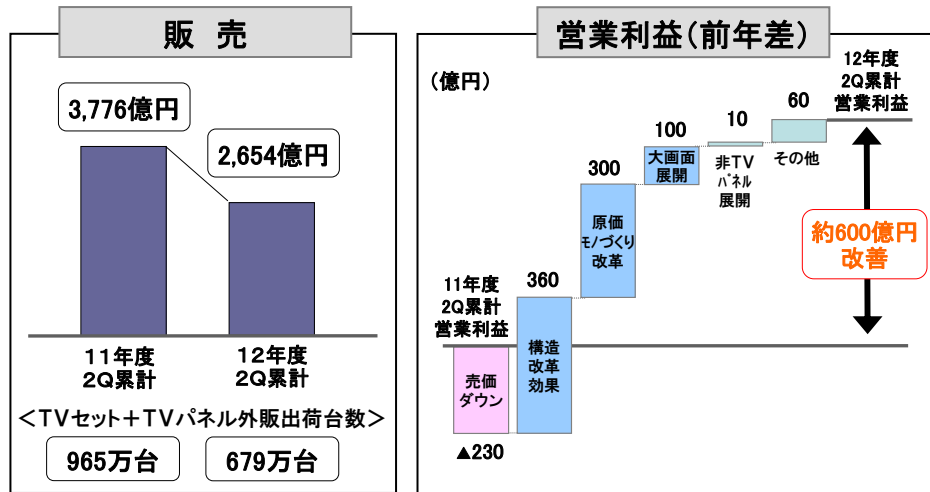


Panasonic ideas for life

## テレビ／パネル事業の状況

11

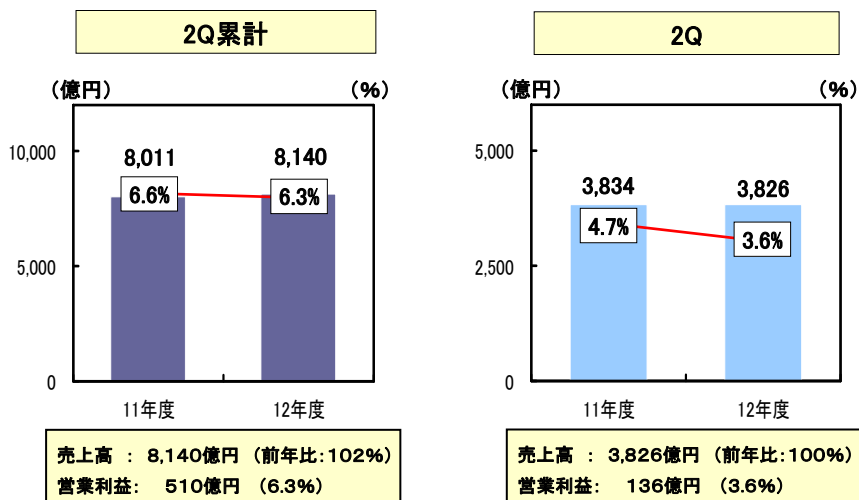
### 構造転換は順調に進捗



## アプライアンス

12

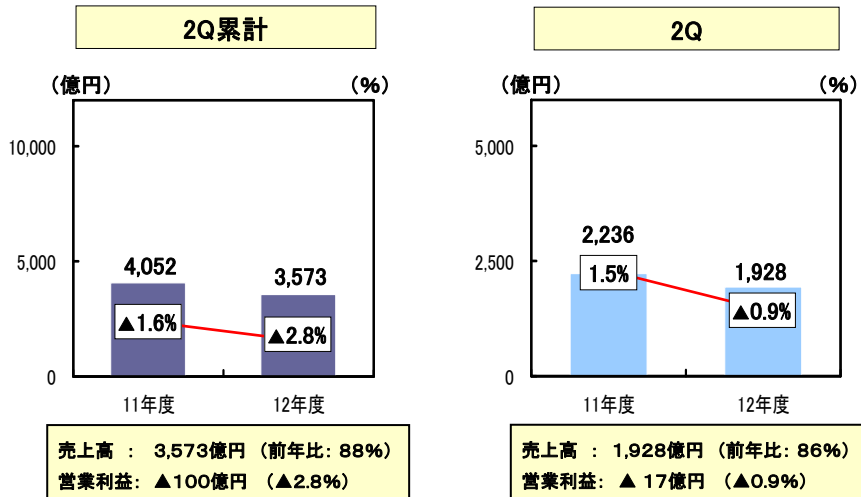
### エアコンの販売減が影響し、減益



## システムコミュニケーションズ

13

### システム関連機器、携帯電話の不振で損失計上

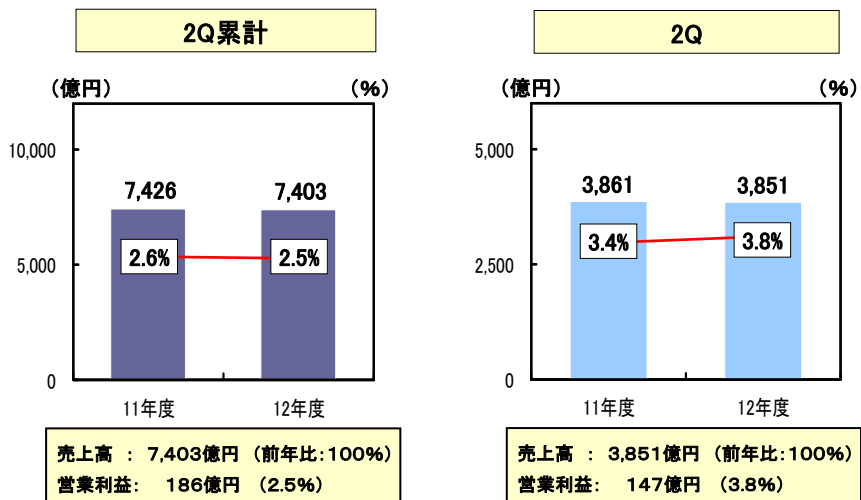


Panasonic ideas for life

## エコソリューションズ

14

### 売上は前年並みを確保するも、減益

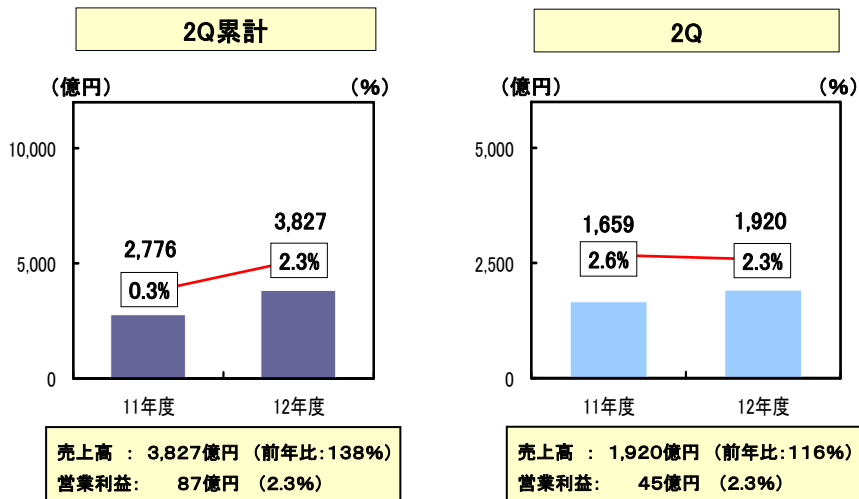


Panasonic ideas for life

## オートモーティブシステムズ

15

### 震災の影響を受けた前年に比べ増収増益

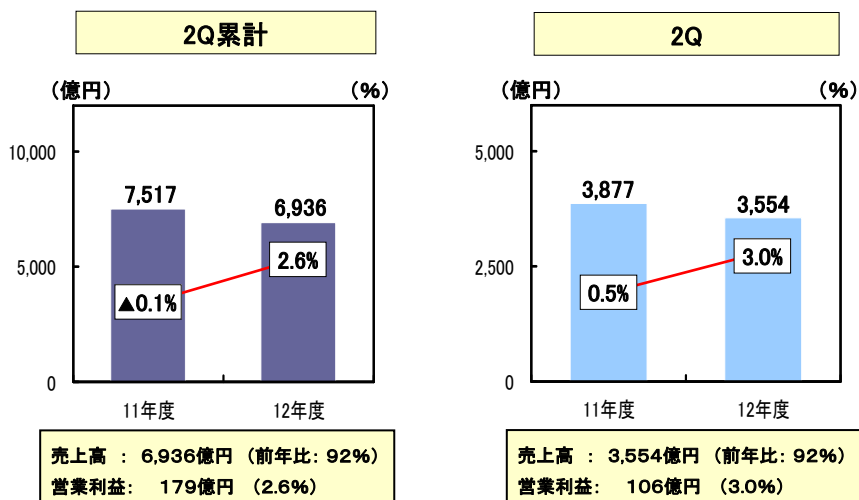


Panasonic ideas for life

## デバイス

16

### 構造改革効果や固定費削減で収益改善



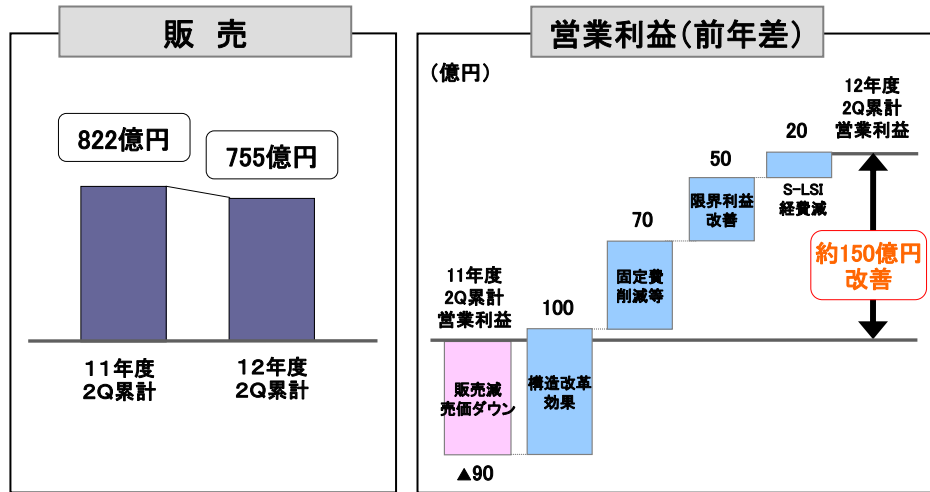
Panasonic ideas for life



## 半導体事業の状況

17

### 販売が減少する中、構造改革効果等で収益改善

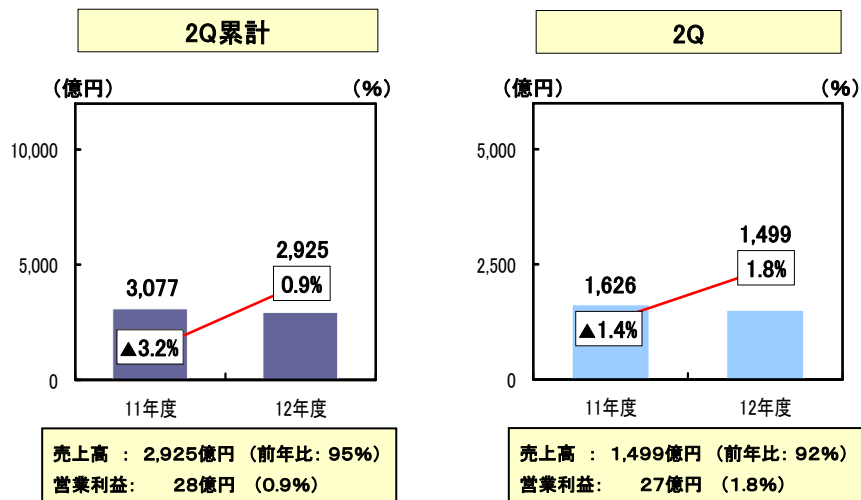


Panasonic ideas for life

## エナジー

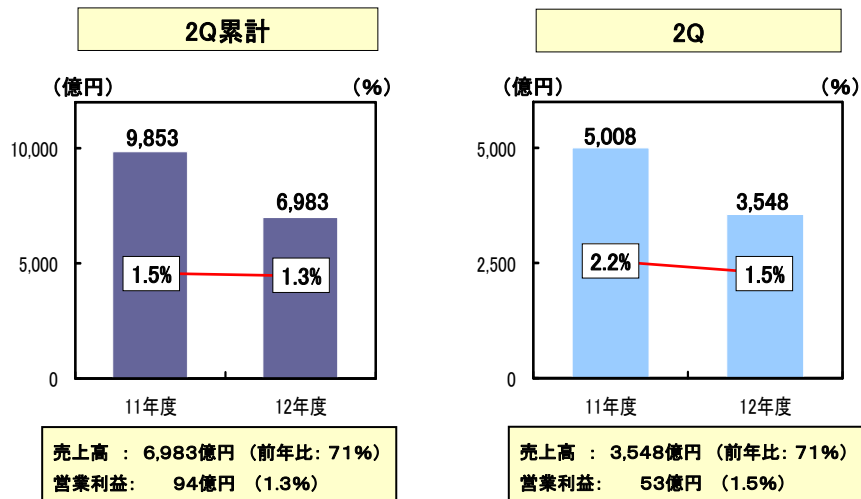
18

### 固定費削減と合理化効果等により、収益改善



Panasonic ideas for life

マニュファクチャリングソリューションズ社の販売減が影響し、減益



ヘルスケア社・MS社の実績

		ヘルスケア社		MS社*	
		実績	前年比/差	実績	前年比/差
2Q累計	売上高	653	98%	821	88%
	営業利益	39	+9	113	▲32
2Q	売上高	330	94%	375	81%
	営業利益	21	0	50	▲28

\* マニュファクチャリングソリューションズ社

## 営業外損益の主な増減要因

21

【2Q累計】

(億円)

	実績	前年差
営業利益	874	+398
金融収支	▲44	▲8
早期退職一時金 *	▲145	+88
その他 *	▲3,472	▲1,672
営業外損益	▲3,661	▲1,592
税引前利益	▲2,787	▲1,194

\* 「早期退職一時金」および「その他」に含まれる事業構造改革費用合計: ▲3,555億円

Panasonic ideas for life

## 事業構造改革費用の内訳

22

### 将来収支の見直しに伴い、のれん・無形資産を減損

【2Q累計】

(億円)

内容	ソーラー	民生 リチウムイオン 電池	携帯電話	その他 事業	合計
のれん減損	722	746	910	—	2,378
無形資産減損	739	137	—	—	876
早期退職 一時金 他	19	73	46	163	301
合計	1,480	956	956	163	3,555

\* 事業構造改革費用のうち、3,348億円はキャッシュアウトが発生しません。

Panasonic ideas for life

## 繰延税金資産の取崩し

23

### 急速な経営環境悪化に伴い、繰延税金資産を取崩し

【2Q累計】

(億円)

	実績	前年差
税引前利益	▲2,787	▲1,194
法人税等 *	4,114	+4,128
持分法による投資利益	26	▲22
非支配持分帰属利益控除前当期純利益	▲6,875	▲5,343
非支配持分帰属利益	▲23	+147
当社株主に帰属する当期純利益	▲6,852	▲5,490

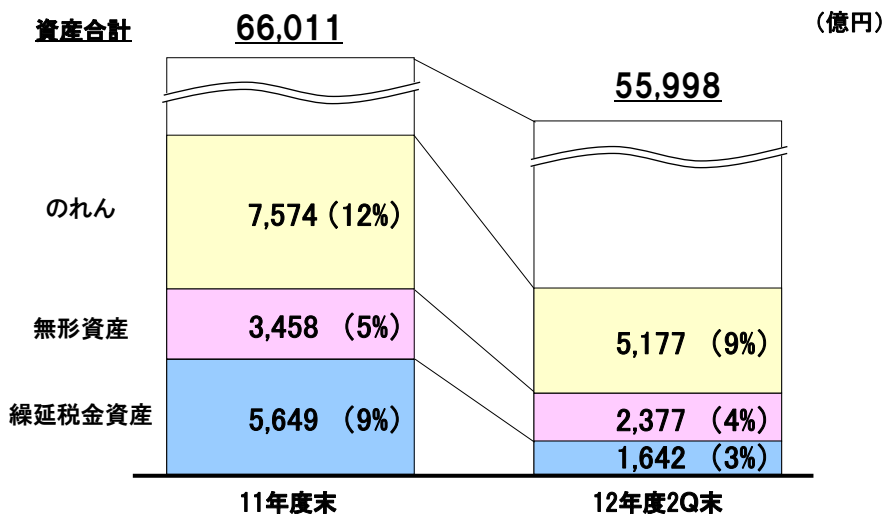
\* 法人税等に含まれる繰延税金資産の取崩し額 : 4,125億円  
 このうち、 パナソニック㈱ : 3,715億円  
 パナソニックモバイルコミュニケーションズ㈱ : 410億円

Panasonic ideas for life

## 2012年度2Q末の主な資産

24

### のれん・無形資産・繰延税金資産の過剰感が解消



Panasonic ideas for life

# 1. 第2四半期 連結決算概要

# 2. 年間業績見通し修正

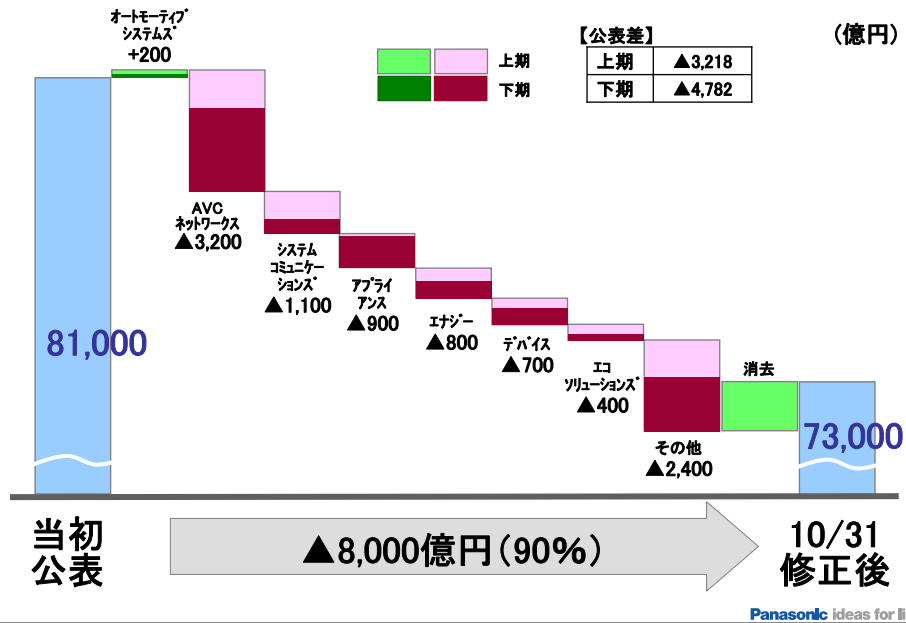
(億円)

	見通し	当初公表	公表差	前年	前年差
売上高	73,000	81,000	▲8,000	78,462	▲5,462
営業利益	1,400 (1.9%)	2,600 (3.2%)	▲1,200	437 (0.6%)	+963
税引前利益	▲3,650 (▲5.0%)	1,600 (2.0%)	▲5,250	▲8,128 (▲10.4%)	+4,478
当社株主に 帰属する 当期純利益	▲7,650 (▲10.5%)	500 (0.6%)	▲8,150	▲7,722 (▲9.8%)	+72

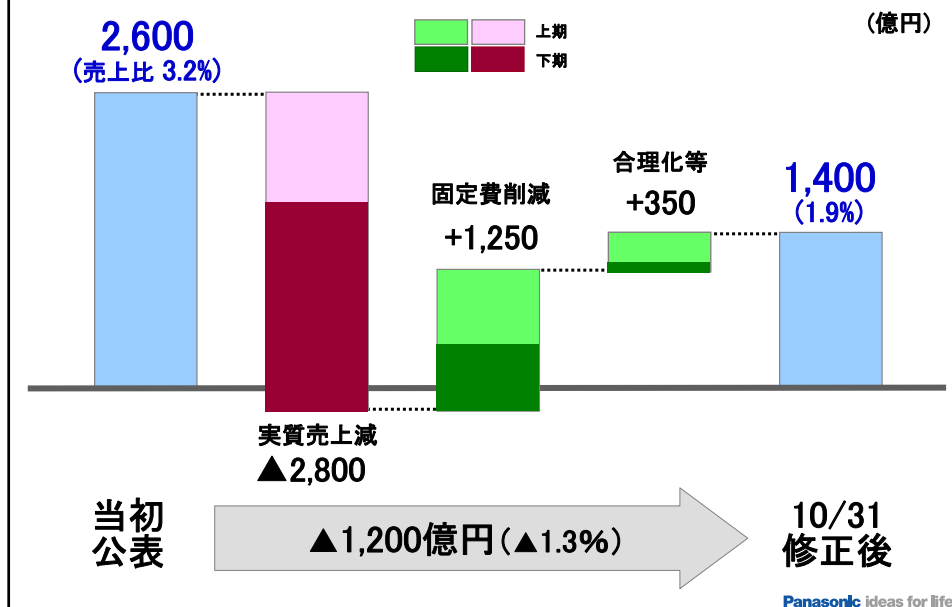
【為替レート】

	上期	下期	年間	公表
1USドル	80円	78円	79円	78円
1ユーロ	101円	97円	99円	103円

## 2012年度修正見通し セグメント別売上高分析(公表差) 27



## 2012年度修正見通し 営業利益分析(公表差) 28



## 2012年度 セグメント別年間見通し

29

(億円)

	売上高			営業利益		
		公表差	前年差		公表差	前年差
AVCネットワークス	14,100	▲3,200	▲3,035	220	▲380	+898
アプライアンス	15,400	▲900	+58	820	▲180	+5
システムコミュニケーションズ*	7,900	▲1,100	▲508	90	▲150	▲83
エコソリューションズ	15,600	▲400	+342	550	▲50	▲39
オートモーティブシステムズ*	7,400	+200	+868	130	▲50	+81
デバイス	13,500	▲700	▲546	230	▲170	+396
エナジー	5,800	▲800	▲349	0	▲30	+209
その他	14,200	▲2,400	▲4,609	100	▲140	▲136
計	93,900	▲9,300	▲7,779	2,140	▲1,150	+1,331
消去又は全社	▲20,900	+1,300	+2,317	▲740	▲50	▲368
連結決算	73,000	▲8,000	▲5,462	1,400	▲1,200	+963

Panasonic ideas for life

## 2012年度 営業外損益等の主な内容

30

(億円)

内容	修正後	当初公表	公表差
営業利益	1,400	2,600	▲1,200
事業構造改革費用	▲4,400	▲410	▲3,990
その他	▲650	▲590	▲60
営業外損益計	▲5,050	▲1,000	▲4,050
税引前利益	▲3,650	1,600	▲5,250
当社株主に帰属する当期純利益*	▲7,650	500	▲8,150

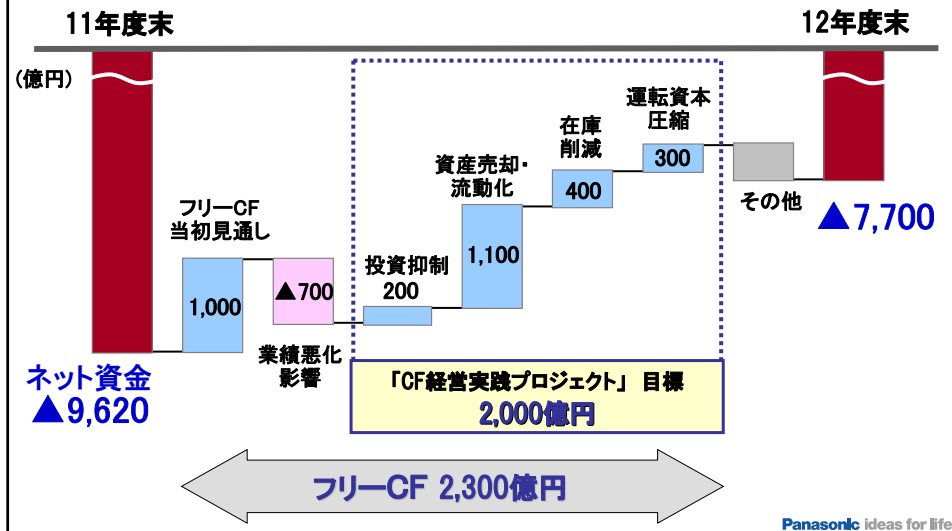
\* 繰延税金資産の取崩し額: ▲4,125億円

Panasonic ideas for life

## 資金の創出

31

「キャッシュフロー経営実践プロジェクト」により、資金を創出



## キャッシュフロー経営の徹底推進

32

- のれん・無形資産・繰延税金資産の過剰感が解消
- 資金流動性確保への備え

- コミットメントラインの設定 6,000億円
- 普通社債の発行登録 1,500億円

CF経営の徹底

- ・全社ベースでの資金配分最適化
- ・投資の絞込みと期待リターン管理
- ・キャッシュ化速度の徹底改善
- ・資産圧縮の徹底によるB/Sのスリム化

投下資本収益性の徹底管理によって、  
中長期でキャッシュを創出する事業活動を推進

Panasonic ideas for life



# Panasonic

## ideas for life

本プレゼンテーションには、パナソニックグループの「将来予想に関する記述 (forward-looking statements)」（米国1933年証券法第27条Aおよび米国1934年証券取引所法第21条Eに規定される意味を有する）に該当する情報が記載されています。本プレゼンテーションにおける記述のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、かかる将来予想に関する記述に該当します。これら将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報に鑑みてなされたパナソニックグループの仮定および判断に基づくものであり、これには既知または未知のリスクおよび不確実性ならびにその他の要因が内在しており、それらの要因による影響を受けるおそれがあります。かかるリスク、不確実性およびその他の要因は、かかる将来予想に関する記述に明示的または黙示的に示されるパナソニックグループの将来における業績、経営結果、財務内容に関してこれらと大幅に異なる結果をもたらすおそれがあります。パナソニックグループは、本プレゼンテーションの日付後において、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。投資家の皆様におかれましては、米国1934年証券取引所法に基づく今後の米国証券取引委員会への届出等において当社の行う開示をご参照下さい。

なお、上記のリスク、不確実性およびその他の要因の例としては、次のものが挙げられますが、これらに限られるものではありません。かかるリスク、不確実性およびその他の要因は、当社の有価証券報告書等にも記載されていますのでご参照下さい。

- 米国、欧州、日本、中国その他のアジア諸国の経済情勢、特に個人消費および企業による設備投資の動向
- 多岐にわたる製品・地域市場におけるエレクトロニクス機器および部品に対する産業界や消費者の需要の変動
- 為替相場の変動（特に円、米ドル、ユーロ、人民元、アジア諸国の各通貨ならびにパナソニックグループが事業を行っている地域の通貨またはパナソニックグループの資産および負債が表記されている通貨）
- 資金調達環境の変化等により、パナソニックグループの資金調達コストが増加する可能性
- 急速な技術革新および変わりやすい消費者嗜好に対応し、新製品を価格・技術競争の激しい市場へ遅滞なくかつ低コストで投入するパナソニックグループの能力
- 他企業との提携またはM&A（パナソニック電工および三洋電機の完全子会社化後の事業再編を含む）で期待どおりの成果を上げられない可能性
- パナソニックグループが他企業と提携・協調する事業の動向
- 多岐にわたる製品分野および地域において競争力を維持するパナソニックグループの能力
- 製品やサービスに関する何らかの欠陥・瑕疵等により費用負担が生じる可能性
- 第三者の特許その他の知的財産権を使用する上での制約
- 諸外国による現在および将来の貿易・通商規制、労働・生産体制への何らかの規制等（直接・間接を問わない）
- パナソニックグループが保有する有価証券およびその他資産の時価や有形固定資産、のれんなどの長期性資産および繰延税金資産等の評価の変動、その他会計上の方針や規制の変更・強化
- 地震等自然災害の発生、感染症の世界的流行、サプライチェーンの寸断、その他パナソニックグループの事業活動に混乱を与える可能性のある要素

※営業利益（損失）は、日本の会計慣行に従い、売上高から売上原価、販売費及び一般管理費を控除して算出しています。米国で一般に公正妥当と認められた会計原則では、連結損益計算書においてその他の特定の費用（長期性資産の評価減や構造改革費用等）は営業利益（損失）に含まれます。